

## スタートアップ支援事業

地域貢献

### ● 事業概要

本学の設置団体とのさらなる連携の推進をめざし、事業化に向けた初動の取り組みを財政的に支援する事業です。2017年度に大阪市との連携事業としてスタートし、2020年度からは本学と大阪府立大学の法人統合に伴い大阪府・大阪市・本学・大阪府立大学の4者間で行われることとなりました。

大阪府・市の各部署から挙げられた行政ニーズと学内の教育・研究シーズとのマッチングに向けたコーディネートを行います。

## 2020年度実績

大阪府からのニーズ12件、大阪市からのニーズ10件についてコーディネートを行った結果、計4件のマッチングが成立しました。

### ■ 成立状況

#### 【大阪府】(事業予算100万円)

府担当部署	案件名	本学担当教員
都市整備部 港湾局 堺泉北港事務所	ドローンやAIを活用した港湾施設点検の実証実験	川合 忠雄 教授・吉田 大介 准教授(工学研究科)、瀧澤 重志 教授(生活科学研究科)
住宅まちづくり部 住宅経営室 経営管理課	入居者の高齢化が進む府営住宅における地域コミュニティ活性化	廣岡 浄准 准教授・古久保 さくら 准教授・島和博 特任研究員(人権問題研究センター)

#### 【大阪市】(事業予算100万円)

市担当部署	案件名	本学担当教員
消防局	火災の分析と今後の展望	生田 英輔 准教授(生活科学研究科)
旭区	区内小・中学生への体系的な防災教育の実現に向けた調査・研究	生田 英輔 准教授(生活科学研究科)

## Topics

### 過去15年間の火災を分析! ~大阪市立大学&大阪市消防局~

大阪市の火災件数は減少を続けており、その理由として人的属性、建物構造、地域特性、生活環境や社会情勢などの変化が複雑に関係していると考えられます。高齢化の著しい進展、ICTの急速な進化や新製品の普及に伴う生活環境の変化は、火災の出火原因にも影響することが想定され、これらに対応した火災予防施策を推進していくことが求められます。

そこで、生田英輔准教授(生活科学研究科)が、大阪市消防局と共同で「大阪市における火災分析」を実施しました。本分析結果を火災予防に活用し、市民が安心して暮らせる「災害に強いまち・安全な都市」を目指して、今後の火災予防施策を推進することを目的としています。

● 研究対象：平成17年から令和元年までに大阪市内で発生した火災(過去15年間)

※分析項目・結果の詳細は、大阪市消防局のホームページ「『大阪市における火災分析』を大阪市立大学と初めて共同で行いました」をご覧ください。



## 「副首都・大阪」大学連携プロジェクト

地域貢献

### ● 事業概要

大阪府・大阪市が目指す「副首都・大阪」をテーマに、副首都推進局と複数の大学が連携して行うプロジェクトです。副首都・大阪の実現に向けた取り組みの提案について、学生が調査及び研究を行いその成果を発表します。(主催：大阪府・大阪市)

## 2020年度実績

本学からは、松永桂子准教授(経営学研究科)のゼミから2チーム計6名が参加しました。詳細はP.28に松永准教授の事例が掲載されているのでご覧ください。

参加校：大阪市立大学、追手門学院大学、大阪経済大学、慶応義塾大学

■ 中間報告会 開催日：2020年11月8日(日) 場所：追手門学院大学

■ 成果報告会 開催日：2021年2月7日(日) 場所：オンライン開催



成果報告会の様子

## JR西日本×大阪市立大学「第2回まちのにぎわい創出アイデアコンテスト」

地域貢献

### ● 事業概要

JR西日本と大阪市立大学の連携企画として、JR沿線地域の課題解決・地域活性化に関するアイデアコンテストを、2019年度から継続して実施しています。既存概念にとらわれない学生ならではのアイデアを募集し、地域活性とまちのにぎわい創出を提案します。



## 2020年度実績

学生からの提案内容は多岐にわたり、アプリ等を活用した新たな情報発信方法の提案、スポーツ・未利用地等といった地域の新たな魅力に目を付けたものなどさまざまでした。JR西日本の担当者からは、学生ならではのユニークな発想、新しい手法・方向性で解決しようとする前向きな提案について評価いただきました。受賞した提案内容は、JR西日本において施策へのアイデア反映や具現化にむけて検討されます。

テーマ：より多くの国内外からの来訪者が立ち寄りたくなるような阪和線沿線の魅力・素材の発掘と発信

参加者数：8組(37名)

スケジュール：JR西日本による説明会 2020年7月31日(金)

中間報告会 2020年10月23日(金)

最終報告会 2020年12月23日(水) ※全てオンライン開催



最終報告会(オンライン開催)の様子

### ■ 発表一覧

\*審査員：JR西日本社員 副賞：JR西日本ホテルズギフト券など

タイトル	発表者
【最優秀賞】 百舌鳥の魅力大発掘プロジェクト	上野 夏美、伊藤 瑠奈、岡田 達、坂本 光佑、田中 洸輔、共田 莉奈子、西山 結、花田 夢果、村木 沙綾、安田 佳代子(経済学部3年/指導教員：久保 彰宏 教授)
【ベストユニーク賞】 つぎはぐみどり つながるこころ	田中 佑弥、清水 うらら、坂本 慶太、吉岡 志穂(工学研究科修士1年、工学部4年)
【特別賞】 阪和線沿線ポータルサイトによる情報発信を核とした沿線ブランディングの実践	濱口 鈴乃、加賀美 愛、加藤 照紘、後藤 真采、西 夏妃(文学部2年/指導教員：天野 景太 准教授)
【特別賞】 Eki-connect 長居で一緒に走りませんか?	名和 滉太、横山 圭佑、橋戸 真治郎、西上 魁人(工学研究科修士1年)
レンタサイクルを活用した主体的な発見を促す近隣旅行への誘い(いざな)い	里中 優斗、川崎 遙賀、三木 恵理佳、田中 佐季、加柴 綾香(文学部2年/指導教員：天野 景太 准教授)
Sports Heritage KAIZUKA	宮崎 千紗(生活科学研究科修士1年/指導教員：生田 英輔 准教授)
日帰り銭湯旅行 ~阪和線が高齢者の心を繋ぐ~	濱田 拓実、細野 恭生、菅 政成、的場 隆史(商学部4年・2年/学生団体Books)
日常と非日常をつなぐ~地域素材を活用した安心・安全なにぎわい~	和葉 真理子、吉居 未優、矢部 佳夏、鳥居 佳穂(生活科学部3年/指導教員：生田 英輔 准教授)



津波浸水区域外での災害時避難所確保計画策定に向けた調査・分析業務 (湾岸8区)

地域貢献

● 事業概要

南海トラフ巨大地震における津波により、湾岸5区(此花区、港区、大正区、西淀川区、住之江区)のほぼ全域及び大阪市域西側の12区(淀川区、福島区、北区、西区、中央区、浪速区、西成区、住吉区、旭区、都島区、城東区、鶴見区)に於いても浸水すると想定されています。浸水の解消後も、津波による被災により自区内に災害時避難所を確保することが一定期間困難と想定されることから、湾岸5区と危機管理室が協同して、浸水区域外に災害避難所を確保することを主旨とした具体的かつ現実的な避難行動計画の策定に取り組んでいます。

本学では、2019年度より大阪市からの受託事業として、主に都市防災教育研究センターを中心に、この避難行動計画の策定に関して、津波浸水区域外での災害時避難所確保計画策定に向けた調査・分析を行っています。

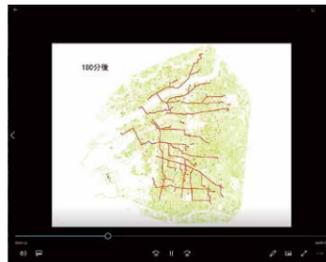
2019年度に湾岸5区で2次避難計画(暫定案)を作成し、大阪市全域での「津波浸水継続時間」と「浸水区域外への推定避難者数」の調査・分析を行った結果、浸水が想定されている大阪市域西側12区のうち、区外に災害避難所の確保が必要な区は福島区、西区、淀川区の3区であることがわかりました。そこで、避難対策については湾岸5区にこの3区をあわせ、計8区において作成するに至りました。

2020年度実績

■ 避難行動のシミュレーション等の実施と計画作成に必要な資料作成

■ 住民と災害時避難所など避難受入施設との適合データ作成

津波、地震による建物被害により災害時避難所を必要とする住民数について、2019年度データの精緻化を行い、移動距離・時間、地勢などを考慮した全市的な避難行動シミュレーションを数理的に実施



シミュレーション(動画)のスクリーンショット

■ 2次避難計画(案)の作成

- ・関連データの調査・分析・整理
- ・シミュレーション(動画)作成の検討
- ※次年度以降も継続実施予定

■ 浸水区域外への避難行動に係る図上訓練の企画・運営補助等

- ・ヘックスを記したマップ(ヘックス図)の作成
- ・図上訓練実施における運営補助(計5回)



図上訓練の様子

■ 津波浸水区域外での災害時避難所確保計画検討

ワーキング(官学連携WG)への参加

■ メディア情報

2021年3月2日(火)放送

読売テレビ「かんさい情報ネットten。」

ゲキ追X 東日本大震災を教訓に関西で進む「南海トラフ巨大地震」への備え

2021年2月17日(水)に行われた、約26万人の二次避難シミュレーションの様子が放送されました。

西成情報アーカイブネット企画運営事業

地域貢献

● 事業概要

西成特区構想のもと、2013年より継続実施している大阪市西成区からの受託事業です。地域に現存する歴史的価値・学術的価値のある資料を収集・整理・デジタルアーカイブ化し、また学習会や交流企画を実施することにより、歴史の正確な理解と地域力の醸成、西成区のイメージアップを図ることを目的としています。

2020年度実績

■ 拠点における常設展示・資料解説・閲覧対応

場所:大阪市社会福祉研修・情報センター1階

■ 区内小学校向け地域教材DVDの制作(2本)

「歴史と地理」編、「戦争と空襲」編



区内小学校向けDVDより

■ にしなり今昔探訪ツアー

「動物園前駅かいわいと「てんのじ村」の歴史・地理」

開催日:2020年11月28日(土)※12月5日(土)は開催中止

参加者:20名

案内人:水内 俊雄 教授(都市研究プラザ)、

吉村 智博 学芸員(西成情報アーカイブ)

コース:動物園前駅、新今宮駅~新世界入口周辺、てんのじ村記念碑、動物園前一番街、周辺路地裏、太子のホテル屋上から西成区内を一望



にしなり今昔探訪ツアーアプリを利用したまち歩き

■ その他

・資料アーカイブ作業(釜ヶ崎日雇労働者組合所蔵資料、土田英雄旧蔵の資料等)

・資料集の編集・解説・刊行(『資料集 昭和初期の都市労働者2・大阪:釜ヶ崎・日雇』第I期・戦後編・全10巻へのデータ提供および編集作業)

地域防災力強化事業~未来につなぐ防災人材養成~チーム纏プロジェクト

地域貢献

● 事業概要

2019年度より継続実施する大阪市住之江区の受託事業です。本事業は、都市防災教育研究センターと連携し、地域防災力の向上にむけた人材育成教育プログラムを実施しています。



ロゴマーク

2020年度実績

2020年度は育成のターゲットを中学生にした「チーム纏(まとい)プロジェクト」という防災教育プログラムを行いました。6回にわたる学習会では、オンラインもしくは会場での参加方法を選択できる学習形式を採用し、理解をより深めるための実習や動画コンテンツなどのサポートも充実した内容となりました。

実施期間:2020年10月11日(日)~2021年3月14日(日)(毎月1回)

参加者:33名(住之江区内中学校の生徒のみなさん)

学習形式:eラーニングおよび会場でのワークショップ(コロナの状況に応じる)

学習目的:「自助力の向上」「共助力・互助力の向上」



パッククッキングで鶏めしを作ろう!(第5回より)

■ 学習内容 \*いずれも10時~12時、防災学習と防災体力等についての2講座

	実施日	学習内容
第1回	2020年10月11日(日)	キックオフイベント 土地の生い立ちを知ろう/災害時避難に必要な体力
第2回	2020年11月8日(日)	避難行動を考えよう/柔軟性を高めるストレッチング
第3回	2020年12月13日(日)	避難計画を立てよう/持久力を高めるトレーニング
第4回	2021年1月24日(日)	コミュニティ防災/筋力とトレーニング
第5回	2021年2月14日(日)	コロナ禍における避難所開設/ライフハックを探せ!
ファイナル	2021年3月14日(日)	ファイナルイベント(講評・学習発表・振り返り 他)

第8回地域連携発表会 ~with/afterコロナで考えるつながりのかたち~

地域  
貢献

● 事業概要

本学が行っている地域の魅力創出や課題解決に向けた取り組みを広く学内外に紹介する「地域連携発表会」を、地域連携センター主催で毎年開催しています。

教員や学生が地域と連携して行った取り組みを発表するだけでなく、地域と大学が連携していくためのノウハウを共有することで、さらなる連携の可能性について議論を深めていくことを目的としています。



2020年度実績

今回は初のオンライン開催となりました。コロナ禍によりこれまでのような現場での活動が難しい状況でしたが、いずれの事例もオンラインを取り入れるなどの工夫によって活動を維持し、with/afterにおける地域連携の方法について共有する機会となりました。事例発表後は、Zoomのブレイクアウト機能を使用し、座談会で事例発表者を中心に意見交換を行いました。

また、学生発表では2つの部門にそれぞれ3組ずつ参加し、各々の取り組みや活動内容について発表動画を流した後、リアルタイムで質疑応答を行いました。審査に基づく各賞のほか、参加者投票による特別賞が贈られました。学生発表の動画は地域連携センターWebサイトでご覧いただけます。

開催日：2021年3月9日（火）

開催方法：Zoomによるオンライン開催

参加者：60名（自治体職員、大学関係者、本学学生・教職員等）



「事例1」松本教授による発表



参加者でスクリーンショット

■ 教員による地域連携事例発表/座談会

タイトル	発表者
事例1 徳島県との「関係人口」をキーワードにした協働事業とゼミナール教育	松本 淳 教授 (本学経済学研究科)
事例2 “まち”と“まち”、人と人をつなぎ、安全で豊かな社会づくりに貢献するための鉄道事業	松中 紗恵子 氏 (JR西日本大阪支社総務企画課なら担当)
事例3 地域と連携した教育プログラムの作成と地域貢献への試み	小村 みち 特任講師 (本学COIL推進室)

■ 学生発表

研究・調査部門	
【副所長賞】 post/withコロナ時代のペリエリアまちづくりのあり方—商業、まち中サイクル観光、観光スポット研究から	田中 真帆 (商学部3年)、松井 歩実 (生活科学部3年)、坂本 翼 (理学部3年) / CR副専攻地域活性化チーム
『百舌鳥の魅力大発掘プロジェクト』 百舌鳥古墳群における校外学習プランの提案	上野 夏美・伊藤 瑠奈・安田 佳代子・村木 沙綾 (経済学部3年/久保ゼミ)
大阪・関西万博を通じた地域活性—プラスONE観光への誘い—	永岡 拓大・松本 尚希・関上 悟志 (商学部3年/松永ゼミ)
活動部門	
【所長賞】国境を越えたプライマリヘルスケアプロジェクト	高田 勝子 (医学研究科博士課程3年)
【副所長賞】【特別賞】 「船の町」の記憶を継承する絵本制作プロジェクト	松井 恵麻 (文学研究科博士課程1年)、橋本 美沙紀 (商学部2年)
ウェブ会議システムを活用した遊びによる子育て応援の取り組み	藤井 厚一郎 (医学部5年) / 親子カフェ おそら

オンライン公開講座

公開  
講座

● 事業概要

2020年、新型コロナウイルスが猛威をふるい、地域連携センターでも予定していた公開講座の中止や延期を余儀なくされました。コロナ禍で可能な生涯学習の手法として新たにオンライン公開講座を企画実施しました。

2020年度実績

講義の内容に合わせて、動画を公開するオンデマンド講座（期間限定）やオンライン会議ツールを活用したウェビナー講座、少人数で行う対話型講座を実施しました。

■ 遺伝子から見たコロナウイルス

生物学、遺伝学を研究する本学教員が、専門家の立場からコロナウイルスを解説する講座を開催しました。ウイルスとは何か、なぜ病気をおこすのかを解説し、コロナウイルスの特徴的な構造や感染のしくみにも触れました。

講師 中村 太郎 教授 (理学研究科)

開催日 第1部 オンデマンド講座 (YouTube) 2020年9月16日 (水) ~30日 (水)

第2部 対話型講座 (Zoom) 2020年10月4日 (日)

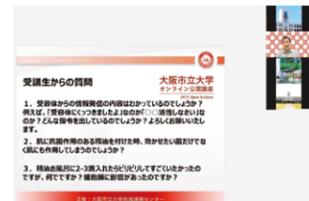
参加者 第1部 91名、第2部 5名

■ 連続講座「ライフサイエンス～私たちのこころと身体～」

未だ解明されていない「生命」を理解するための学問であるライフサイエンスをテーマに、暮らしでよく耳にする「漢方」「エッセンシャルオイル」「抗生薬」の3つの分野からアプローチした連続講座を開催しました。第1回、第2回はウェビナー講座として、第3回は2部制によりオンデマンド講座と対話型講座を実施しました。

回	開催日	タイトル	講師	参加者数
第1回	2021年3月7日(日)	こころに効く 漢方薬～ABC理論で考える	河邊 譲治 准教授 (医学研究科)	54名
第2回	2021年3月14日(日)	植物由来精油(エッセンシャルオイル)の生理活性	藤田 憲一 准教授 (理学研究科)	65名
第3回	第1部2021年2月15日(月)～3月15日(月)	抗生薬～21世紀の魔法の弾丸	立花 太郎 教授 (工学研究科)	113名
	第2部2021年3月21日(日)			14名

講座中は質疑応答も活発に行われ、参加した受講者からは「質問にすぐ的確に答えていただき嬉しかった」「コロナ禍の中で気になっているワクチンとウイルスの関係が理解でき、この時期にぴったりの内容だった」などの感想が寄せられました。



たくさんの質問をいただきました (第2回より)

■ オンライン公開講座ページの公開

過去に主催した講座の映像のほか、地域の皆さんの学びに役立つコンテンツを学内で募集し、公開講座Webサイトに情報を集約しました。学びたい分野や対象から講座を選び見ることができるよう整備しています。(https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/openlectures/p/9)

## 第17回三大学連携事業公開講座「SDGs—いま考えるべき水の未来」

公開講座

### ● 事業概要

本学、大阪府立大学、関西大学の三大学は、同じ大阪都市圏に立地する大学として、2008年に包括連携協定を締結しました。この協定に基づいて、毎年公開講座を共同開催しています。



### 2020年度実績

「SDGs」をテーマに世界や日本の水資源問題に焦点をあて、基調講演者のほか各大学から選出された教員と学生が参加し、活発な議論を行いました。

開催日：2020年11月28日（土）

開催方法：オンライン（LIVE配信）

参加者数：393名（最終申込者数）

第1部	基調講演「水と気候変動と持続可能な未来」
	講師：沖 大幹 氏（東京大学総長特別参与・国際連合大学上級副学長）
第2部	パネルディスカッション「世界、日本での水資源問題について」
	パネリスト：相馬 明郎 教授（本学工学研究科）
	遠藤 崇浩 教授（大阪府立大学現代システム科学域）
	岡 照二 教授（関西大学商学部）
	ファシリテーター：大塚 耕司 教授（大阪府立大学現代システム科学域学域長）



パネルディスカッション

## 近鉄文化サロン共催講座

公開講座

### ● 事業概要

株式会社近鉄百貨店との文化事業実施に関わる協定に基づき、2007年度から近鉄文化サロンとの共催講座を実施しています。



### 2020年度実績

新型コロナウイルス感染拡大の影響により多数の講座の開催が延期されましたが、「古墳築造に用いられた尺度」[中世都市を歩こうⅢ ～歴史と地形から「町」を復元する] など4講座を実施し、のべ59名が受講しました。

## 文化交流センター

公開講座

### ● 事業概要

文化交流センターは1982年に大阪駅前ビルに設立されました。大学が持つ知的資源を提供し、学術研究成果を社会へ還元することで、学術文化の振興に寄与することを目的とし、年間を通して多くの公開講座やセミナーを開催しています。また、センター内に談話室を設け、本学教職員や卒業生等の情報交換・交流を推進しています。

### 2020年度実績

専門家講座・博学連携講座など多数の講座を企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により全講座が中止・延期を余儀なくされました。

## 府大・市大 小中学生サマーラボ～おうちで学ぼう～

小中高大連携

### ● 事業概要

2018年度から大阪府立大学と共同主催している小中学生向けの体験学習プログラムです。夏休み期間を活用し、医学、工学、理学、人文科学、データサイエンスなど幅広い分野のプログラムを提供することで、児童生徒の知的好奇心を育み将来の進路選択に資することを目的としています。



### 2020年度実績

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、すべてオンラインにて開催しました。子どもたちが実際に体験することを狙っている本事業ですが、講師の創意工夫により、新しい形の体験学習を提供することができました。これまで参加者は大阪府下を中心とした関西圏に住んでおられる方がほとんどでしたが、2020年度は日本全国さらには海外からの参加もあり、オンラインならではの広がりがみられた事業となりました。

開催日：2020年8月11日（火）～9月22日（火・祝）

開催形式：オンライン（ZoomまたはYouTube LIVE配信）

参加者：のべ323名（内訳：本学 96名、府大 227名）

### ■ プログラム（本学実施分）

#### 「バイキンズワールド」

講師 金子 幸弘 教授（医学研究科）

開催日 8月16日（日）午前の部（16名参加）／午後の部（14名参加）

バイキンや耐性菌のお話を聞くほか、オリジナルゲームやチャットを活用したクイズ大会を実施し、細菌についての理解を深めました。家族での参加や、近畿圏外や海外からの参加もあり、オンラインならではの楽しい講座となりました。



分かりやすいスライドで楽しく解説！

#### 「あなたの傘をオリジナル日本刀に！『束糸巻き』で学ぶ日本のワザ」

講師 菅原 真弓 教授・村田 隆志 非常勤講師（文学研究科）

開催日 8月19日（水）（35名参加）

YouTubeを利用しLIVE配信で開催しました。『束糸巻き』について講義で学んだ後、巻きの実践に取り組みました。参加者の声に応じて分かりにくい部分を再度説明したライブ感満載の講座となりました。終了後には、配信中に自宅で制作した束糸巻きの写真をお送りいただき、ご家族で楽しんで取り組んでいた様子がうかがえました。講座の様子は地域連携センターのYouTubeで公開しています。



配信映像と完成した束糸巻き

#### 「AIをつくろう～機械学習の基礎実習～」

講師 荻尾 彰一 教授（理学研究科）

開催日 9月22日（火・祝）（30名参加）

はじめにAI技術の核について、その仕組みとAIの学習についてレクチャーをうけました。事前配布した資料をもとに、「AIへの学習のさせ方」について例題を解きながら学んだ後は、それぞれ問題に取り組みました。参加者たちに回答してもらいながら答え合わせを行うことで、「AIに学習させる実習」の理解を深めました。



手元カメラで答え合わせ

## オンラインプログラム



### ● 事業概要

2020年度はコロナ禍により臨時休校が長期化するなど、生活様式が大きく様変わりしました。本プログラムは小中高生をはじめとする幅広い世代が在宅で学べるようSNSを中心に発信しました。配信したコンテンツや動画は地域連携センターWebサイトでまとめて見ることができます。



### 2020年度実績

#### ■ 読書のススメ

中高生の読書習慣を応援し、読書意欲の向上や新たな分野への興味関心のきっかけになることを目指し、本学の教職員が、中学生・高校生へお薦めの1冊をご紹介します。



配信日：2020年6月8日(月)～8月26日(水) 全34回

#### 紹介内容の一例

配信日	書籍タイトル	著者	紹介者
6月8日	国土の変貌と水害	高橋裕	宮野 道雄 先生 (地域連携センター所長)
6月9日	夏への扉	ハインライン、ロバート・A	吉野 治一 教授 (理学研究科)
6月25日	13歳の進路	村上龍、(絵)はまのゆか	竹内 日出雄 准教授 (工学研究科)
7月8日	(人物叢書)織田信長	池上裕子	仁木 宏 教授 (文学研究科)
7月27日	あなたの中のリーダーへ	西水美恵子	塩川 雅美 特任教授 (高等教育研究院)
8月3日	リスク-神々への反逆(上)(下)	ピーター・バーンスタイン	生田 英輔 准教授 (生活科学研究科)
8月5日	汗はすごい 一体温、ストレス、生体のバランス戦略	菅屋潤壹	渡辺 一志 教授 (都市健康・スポーツ研究センター)
8月19日	弥栄のきずな	林由紀子	廣岡 浄進 准教授 (人権問題研究センター)

#### ■ 実験しようよ!～身近なもので科学～

子どもたちの知的好奇心を刺激し、科学に対する興味関心の向上とさらなる学習意欲の促進を目指し、本学の技術職員の経験を生かし、子どもたちが家でできる実験を動画でご紹介しました。



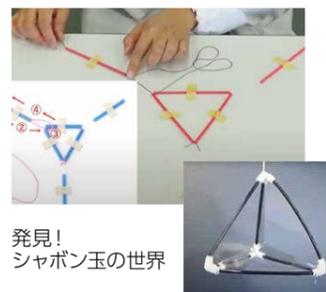
配信日 2020年6月17日(水)～8月21日(金) 全10回

#### 配信内容一覧

配信日	実験タイトル
6月17日	さとうでつくる色水タワー
6月24日	葉っぱと水玉
7月1日	ビンに入る! ゆでたまごジック
7月8日	やってみよう! 手作り顕微鏡
7月15日	発見! シャボン玉の世界
7月22日	ふしぎ! 色が変わるジュース
7月29日	セミの羽化を見てみよう!
8月7日	水の通り道～植物の体内
8月11日	いろんな雲を見つけたよ
8月21日	魚のおなかを見てみよう



さとうでつくる色水タワー



発見! シャボン玉の世界

## 市大授業



### ● 事業概要

主に高校生を対象とし、文学部と理学部の現役大学教員による授業を体験し、キャンパスや施設の見学をすることで、新たな発見や興味を見つけ、学習意欲の向上と進路選択へ寄与することを目指した毎年恒例のイベントです。



公開動画「ブラックホールが見えた?」

### 2020年度実績

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、残念ながら2020年度の開催は中止となりましたが、理学部の授業動画を制作し、地域連携センター公式YouTubeで一般公開しました。

公開件数 5件

公開期間 2020年8月7日(金)～8月20日(木) (\*現在も公開中)

#### ■ 公開動画一覧

講座タイトル	講師
生命機能を支える金属イオンの役割—化学者の視点—*	中島 洋 教授 (理学部化学科)
ブラックホールが見えた?*	石原 秀樹 教授 (理学部物理学科)
代数方程式の解の存在	濱野 佐知子 准教授 (理学部数学科)
プレートテクトニクスに伴う物質循環	益田 晴恵 教授 (理学部地球学科)
「見る」をひもとく—光や色を感じるしくみ—	寺北 明久 教授 (理学部生物学科)

## 高校化学ブランドコンテスト



### ● 事業概要

高校生および工業高等専門学校生(3年生以下)の自主的な学習研究活動を支援し、高校生等の科学的な創造力を培うことで、将来科学分野で活躍できる人材へ育成することを目的に行っている教育支援プログラムです。詳細はP.80の小寄教授の事例をご覧ください。主催：大阪市立大学・名古屋市立大学・横浜市立大学・読売新聞社

### 2020年度実績

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、高校等での自主的な研究活動や国内外の移動が制限されたことから、2020年に予定していた第17回コンテストの開催は延期になりましたが、高校生の研究・活動支援を目指した取り組みを実施しました。



特別企画

#### ■ 映像制作と公開

2種類の動画・映像制作を行い公開しました(現在も公開中)

オンラインレクチャー：大学教員による発表技術向上のための講義動画

特別企画【がんばれ科学者の卵たち!～グラコンでつながる仲間の輪～】：科学を志す思いを繋ぎ研究の励みとなることを目的に、各地の高校生等からのメッセージをつなげた映像

#### ■ 海外サイエンスフェアへの参加推薦校選出とオンライン参加支援

International Science Youth Forum Digital @ Singapore (ISYF digital 2021) 1チーム

Taiwan International Science Fair (TISF) 2021 2チーム (いずれも3等賞受賞)



博学連携事業

その他

● 事業概要

地方独立行政法人大阪市博物館機構および一般財団法人大阪市文化財協会と本学は、それぞれ包括連携協定を締結し、歴史・文化・美術などの分野でそれぞれの専門性を活かしつつ、学生や博物館利用者、市民や地域社会への貢献をさらに高めることを目的に共同事業を実施しています。各事業の企画・運営は、博物館および文化財の学芸員と大学教員で構成される博学連携ワーキンググループを組織して行っています。

2020年度実績

徳川秀忠による徳川大坂城築造から400年になることを記念し、シンポジウムや連続講座で最新の調査や研究についてお話ししました。

■ シンポジウム「徳川大坂城400年」

徳川大坂城の歴史的意義やこれからの研究課題について議論が交わされ、「太閤さんのまち」とイメージされる大坂が、近世の幕藩体制の中で重要な位置づけられ、大きな飛躍を遂げたことが発見される内容となりました。

開催日：2021年1月24日（日）

開催場所：大阪歴史博物館 4階講堂 参加者：74名

講演：「上町台地の地盤と大坂城本丸地区盛土の特徴」三田村 宗樹 教授（理学研究科）、他5名



ディスカッション

■ ミュージアム連続講座「探訪 大坂城とその周辺」

6名の講師がさまざまな視点から大坂城とその周辺に迫りました。初回到壇した仁木宏教授（文学研究科）は、地中に埋められてしまった豊臣大坂城について、サウンディング調査の映像や写真を用いながら説明しました。

開催日：2021年2月18日（木）、25日（木）、3月4日（木）（全3回）

開催場所：難波市民学習センター 講堂 参加者：のべ122名

講演：「つついて探ろう豊臣大坂城—サウンディング調査の方法と成果—（第1回）」仁木 宏 教授（文学研究科）、他5名



仁木 宏教授

2008年にノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎博士の生誕100周年を記念した企画展示を実施するほか、関連イベントも開催しました。（主催：大阪市立大学南部陽一郎物理学研究所、大阪市立科学館）

■ 企画展示「ほがらかに」～南部陽一郎の人生と研究～

開催日：2021年1月13日（水）～3月28日（日）

開催場所：大阪市立科学館 展示場4階

■ 関連イベント「スペシャルナイト 物理学者・南部陽一郎と宇宙」

南部博士とゆかりのある3名の先生が、それぞれ南部博士との思い出を交えながら話すなど、生誕100周年記念にふさわしい心温まる講演会となりました。

開催日：2021年1月23日（土）

開催方法：オンライン（YouTube LIVE配信）

講演：「南部博士と素粒子物理学」糸山 浩司 教授（理学研究科/南部陽一郎物理学研究所所長）、他2名



スペシャルナイトの様子

■ 共同研究

- ・戦略的研究（基盤研究/2020年度）「豊臣期大坂城本丸の調査ならびに復元研究—文理融合プロジェクト—」  
代表研究者：仁木 宏 教授（文学研究科）
- ・数年にわたる共同研究の成果として、書籍「難波宮と大化改新」が出版されました。  
代表研究者：岸本 直文 教授（文学研究科）

和歌山県の過疎地域における集落の維持・活性化と再編（データ活用事業）

その他

● 事業背景と目的

本学の地域貢献の主眼としてのシンクタンクの機能を発揮するために、データサイエンス強化を研究・教育・地域貢献を一体化させた取組として実施してきました。これまで大阪市の生活保護のビッグデータ分析や、大阪市内各区役所との地理情報に基づく地域分析や地域プロモーション、和歌山県データ活用推進センターと共同で中山間地域の現状や将来分析、行政の施策の効果などの分析を行ってきました。分析の結果は、EBPM（エビデンスに基づく政策立案）の一環として自治体職員の研修も取り込み、公立大学の真価を発揮する重要な取り組みと位置付けています。

本事業の背景としては、中央省庁の地方移転の取り組みのもと、総務省統計局の一部機能が和歌山県に移転となり、それを契機として実施する和歌山県事業に、本学の研究チームが参画しました。データサイエンス強化に基づく、地方自治体との協働プログラムとして、シンクタンクの機能の錬磨に努めています。

● 事業概要

2017年から着手された和歌山県の取組「和歌山県データを利活用した公募型研究事業」に応募し、採択されました。和歌山県を対象とし明治行政村という新しい地理的統計単位を提案し、小地域データに基づいてこの新しい地理的範囲によるデータベースを構築、地理情報の可視化としてGIS（地理情報システム）分析を基本に、コーホート分析を始めとする近年の人口動態の分析、集落再編のコスト試算や将来人口推計を行いました。

事業終了後も、研究チームを中心に若手研究者も交え、継続して和歌山県の中山間地域の諸課題についての地理情報の収集、分析を行っています。同時に和歌山県内の自治体を対象とした研修事業を実施しました。

2020年度実績

「ふるさと生活圏の維持について理解を深めるセミナー」と題して、人口推計の解説や人口データの可視化のスキル取得と分析結果の解釈といったデータ利活用方法について、市町村職員等を対象に講義を実施しました。このセミナーは2018年度から継続して実施しており、2020年度は本学よりオンライン配信にて開催し、24名の参加がありました。また、研修中の映像は、YouTube上で限定配信しました。

■ ふるさと生活圏の維持について理解を深めるセミナー

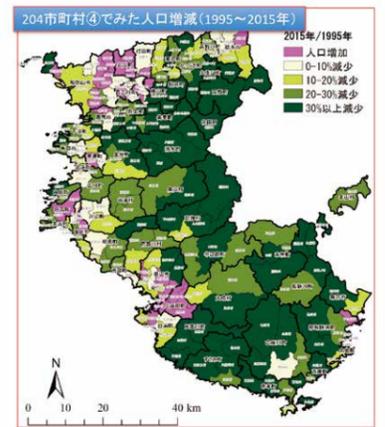
開催日：2020年12月22日（火）

開催場所：大阪市立大学 学術情報総合センター

対象者：和歌山県内市町村担当職員及び県振興局担当職員

講師：水内 俊雄 教授（都市研究プラザ兼文学研究科）

熊谷 美香 特任講師（健康科学イノベーションセンター）



セミナーの様子

## 地域志向教育の取り組み

大学における  
地域貢献活動の  
取り組み

### ● 事業概要

本学では全学共通科目の履修において「地域志向系科目」2単位以上の修得が必須となっているほか、都市や地域社会が抱える課題とその解決の方策を現場で学修するプログラム「CR（コミュニティ再生）副専攻」を設置し、主体的に地域社会をデザイン・コーディネートする人材の育成を目指しています。

## 2020年度実績

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、フィールドワークを含めた演習の対面実施が制限された状況ではありましたが、遠隔授業などを活用し、受講生もカリキュラムに取り組みました。

### ■ 全学共通地域志向系科目

開講：27科目

### ■ CR認定専門科目

開講：20科目

### ■ CR副専攻科目

科目名	履修学生数
地域実践演習I~V	37名
アゴラセミナーIa/Ib	6名
アゴラセミナーII	4名

### ■ アゴラセミナーII 報告会

CR副専攻の集大成である「アゴラセミナーII」を履修した学生が、自ら問題提起し、設定したテーマとそのテーマに対する解決方法について発表を行いました。コロナ禍ではありましたが、それぞれが積み重ねた研究をしっかりと報告しました。

開催日：2020年8月8日（土） 開催形式：Web開催

発表テーマ	発表者（学部・学年）
・地域の隠されたスポットの魅力を開発する ・大阪を守る水門と番人	理学部3年生
・アフターコロナ時代の観光・商業・集客業を考える ・地域創造の中心になる「人」への注目	商学部3回生
・中山間地域の子育て拠点の在り方 ・新型コロナ禍における避難所運営	生活科学部3回生
・景観からとらえる港区・大正区の魅力創出 ・着地型観光の視点から見る生きた建築ミュージアム大阪	生活科学部3回生

### ■ オープンキャンパスでのCR副専攻の紹介

2020年8月8日（土）に開催された大阪市立大学Webオープンキャンパスにて、動画公開により紹介しました。

### ■ 地域志向教育研究補助事業

地域と連携してCR副専攻の実習等に貢献しうる取り組みを行っている教員に対して、「地域志向教育研究補助事業」を通じて助成を行っています。2020年度はこの趣旨に沿った事業8件が、選考のうえ採択されました。



フィールドワークの様子（地域実践演習）



アゴラセミナーII報告会での発表の様子

## 地（知）の拠点事業（COC+）継続事業

大学における  
地域貢献活動の  
取り組み

### ● 事業概要

2015年度の文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に和歌山大学を事業主体として採択され、本学は参加校として参画しました。2019年度で事業は終了しましたが、引き続き事業継続を行うことで、和歌山県の自治体や地域等と協働して交流を図り、地域を活性化する人材、地元で活躍できる人材の育成を目指しています。

## 2020年度実績

学内で公募を行い、申請された2件の研究テーマを実施しました。

### ■ 市民の防災力向上のためのアクティブラーニング防災ワークショッププログラムの開発

研究代表者：生田 英輔 准教授（生活科学研究科）

2016年度より開始した「御坊まち活ゼミナール」をアゴラセミナーI bの一環として実施しました。

実施日：2020年11月15日（日）

- ・フィールドワーク（和歌山県御坊市まち歩き）にて津波避難タワーを中心とした災害対策および地域観光資源の情報収集
- ・ワークショップにて情報整理と地域の防災力向上につながる活用方法の議論及び創出



### ■ 和歌山県における地理情報・映像のデータプロセッシングを通じた地域志向教育の深化

研究代表者：水内 俊雄 教授（都市研究プラザ）

和歌山県をフィールドに研究する若手研究者の人材育成をベースとし、副専攻や地域実践演習の一環として実施しました。コロナ禍により十分なフィールドワークが実施できなかったものの、実施できたフィールドワーク動画や過去のヒアリング動画を編集し、アーカイブを行いました。

## 学生の地域活動

大学における  
地域貢献活動の  
取り組み

### ● 事業概要

本学では、多数の学生が自主的に地域での活動を行っています。またその活動をバックアップする制度や仕組みがあります。

## 2020年度実績

### ■ エッセイ活動支援事業

本学と大阪市立大学教育後援会が連携し、国連SDGsの精神に基づいた学生の自主的な活動を応援する事業です。地域貢献やボランティア活動など、選考会で承認された活動について、1件につき最大20万円を支給します。（2020年度採択 7団体）

### ■ 地域活動コミュニティボード

Microsoft Teamsを活用し、地域活動を行う学生や地域に興味のある学生と本学教職員が、情報共有・情報発信・交流を行う掲示板（通称：コミポー）を運用しています。



学生による地域貢献活動紹介

2020年度は、Webオープンキャンパス同時開催企画として、地域貢献活動を積極的に行う学生による活動紹介やインタビューも実施しました。収録した動画は地域連携センターWebサイトで公開中です。

## 都市防災教育研究センター (CERD)

大学における  
地域貢献活動の  
取り組み

### ● 事業概要

都市大阪を基盤として、防災教育・防災研究を推進するため2015年3月に開設しました。2011年の東日本大震災後に始動した全学的な取り組みである都市防災研究プロジェクトの成果を踏まえ、災害リスクの評価、災害対応力の向上、社会実装に関する研究を推進するとともに、防災教育および防災リーダーの育成を行っています。国内外の防災関連機関と連携し、巨大複合災害に向けて、最新の災害研究、情報技術、都市科学を踏まえた新しいコミュニティ防災システムの確立を目指します。

### ● 2020年度実績

#### ■ コミュニティ防災人材育成システムの全国展開に向けた実証プロジェクト

JST (国立研究開発法人 科学技術振興機構) が支援する「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (ソリューション創出フェーズ)」に、大阪市住之江区との協働事業「コミュニティ防災人材育成システムの全国展開に向けた実証プロジェクト」が採択されました。

研究期間：2020年10月30日～2023年9月30日



#### ■ 津波浸水による浸水区域外への二次避難計画策定に向けた取り組み

2017年度より大阪市との連携協定により、津波浸水エリア外への二次避難計画の策定に取り組んできました。大阪府が提示している浸水深情報に基づいて、二次避難を始める時機について排水シミュレーションから提示し、地震・津波浸水による家屋被害想定から避難人口を推定してきました。これらの知見に基づいて避難経路を模索し、避難者による避難経路の混雑度を検証するなど、計画策定のためのフィードバック材料としてきました。2020年度は、避難者側の視点だけでなく、避難者を受け入れる側の視点も取り入れた検討を行いました。さらに、COVID-19の感染拡大を受けて、避難計画策定において感染症拡大期における避難所受け入れ数も考慮した検討も行いました。

\*約26万人の二次避難のシミュレーションの様子は、2021年3月2日(火) 放送の読売テレビ「かんさい情報ネットten.」ゲキ追X 東日本大震災を教訓に関西で進む「南海トラフ巨大地震」への備えで放送されました。

#### ■ 防災イベントなど

実施日	講座名・タイトル
2020年9月3日、10日、17日、24日 いずれも(木)・全4回	オンライン防災講座「with コロナ時代を生き抜くには」
2020年10月3日(土)	地震時の家具転倒防止を促進するワークショップ
2020年10月11日(日)～2021年3月14日(日) 全6回	チーム纏(まとい)プロジェクト(住之江区受託事業)
2020年11月3日(火・祝)	第7回 都市防災研究シンポジウム
2020年11月15日(日)	御坊まち活ゼミナール+
2021年1月19日(火)、3月16日(火)	サイエンスカフェ(防災研究座談会) 第25回/第26回
2021年2月20日(土)	コミュニティ防災フォーラム2021 —公立大学減災復興連携拠点の形成に向けて

## 大阪市立大学附属植物園

大学における  
地域貢献活動の  
取り組み

### ● 事業概要

2018年3月に植物園と交野市は、教育活動等で連携することにより、今後もさらに市民に愛される植物園となることを目指して包括連携の協定を締結しました。締結にあたって黒田交野市長は「植物園は交野市の貴重な財産。今後も魅力ある市、魅力ある植物園となるために関係を築きたい」と語り、櫻木本学副学長は「植物資源を通じて地域に貢献したい」と語りました。

### ● 2019年度実績 ※2020年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため実績なし

#### ■ 教育活動および市民サービス

かたの環境講座：植物園をフィールドとした環境学習の実施  
全5回、のべ102名

遠足・校外学習：交野市立幼稚園・小学校等の利用 のべ14校

中学生職場体験：交野市内中学生の受入 3校11名

小・中学校教員研修：新任及び10年目研修の実施

天の川七夕まつりへの事業協力(メタセコイヤのライトアップ等)：入園者数716名



天の川七夕まつり



中学生職場体験

#### ■ 交野市広報誌への掲載など広報活動

#### ■ 植物園メイト制度

65歳以上の交野市民を対象とした会員制度で会員は入園料無料

2019年度新規登録者数：716名

2019年度入園利用者数：のべ4,667名(※新型コロナウイルスによる臨時休園期間含む)

## その他地域社会への貢献

大学における  
地域貢献活動の  
取り組み

### ● 事業概要

本学では、その他さまざまな取り組みを継続的に進めています。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各活動状況も異なります。ご利用前には各Webサイトでご確認ください。

### ● 2020年度実績

#### ■ 図書館(学術情報総合センター)の一般利用

杉本キャンパス学術情報総合センターには、国内最大級の規模を誇る大学図書館が併設されています。利用条件は異なりますが、地域の方・他大学の方・卒業生など、多くの方にご利用いただくことができます。Webサイト (<https://libweb.media.osaka-cu.ac.jp/>)



#### ■ 中小企業支援法律センター

本学ロースクール(大学院法学研究科法曹養成専攻)では、本学出身法曹の親睦団体「有恒法曹会」の協力のもと、中小企業の事業者の皆様を対象に無料法律相談を実施しています。大阪市内の方に限らず、どちらにお住まいの方でもご利用いただけます。Webサイト ([http://www.law.osaka-cu.ac.jp/lawschool/SME\\_support/index.php](http://www.law.osaka-cu.ac.jp/lawschool/SME_support/index.php))

#### ■ 無料法律相談所

本学法学部にて約60年前に設立され、設立当初より学生と教員が一体となって活動するスタイルが特色です。約300名を数える卒業生の中には弁護士として活躍する方もおり、卒業生と交流の機会を持つことで、きめ細やかな相談活動が行われています。Webサイト (<http://www.law.osaka-cu.ac.jp/lawcenter/index.php>)

